

しば子先生の

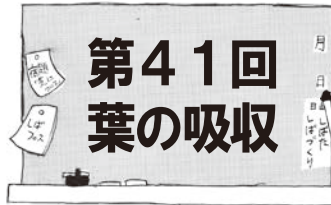
ミ

ニ

ミ

ニ

芝生教室



先生：根からの吸収については良く分かったかしら？

生徒：はい、土壌中の有機、無機の肥料成分を持つ物質が、土壌微生物に分解されて、+か-の無機イオンの形になって根から吸収されるのです・・・

先生：そのとおり、よく勉強したわね・・・根から吸収されるのは『無機イオン』であるということが重要・・・肥料として使われるものがどのような分子構造で、どのぐらいの速さで水に溶けてどのぐらいの時間で微生物に分解されるかが肥料の効きにかかわってくるわね・・・

生徒：良くわかりました・・・ところで葉から養分を吸収させる『葉面散布』についてはどうなのでしょうか・・・？

先生：葉面から養分を吸収させる葉面散布も芝生管理の重要な施肥手法ね・・・でも注意しなければいけないのは、養分を吸収する本来の植物の器官は『根』であって、『葉』は本来的に養分を吸収する器官ではないということ・・・それを勘違いすると痛い目に合うわよ・・・

生徒：と言うことはどうということでしょうか？

先生：葉の表面から吸収される養分は、あくまでも”偶然”葉の表面の毛穴や細胞の隙間、裂け目からしみこむ現象であって、根からと違って植物が積極的に吸収しようとして吸収されるわけではないということ・・・

生徒：うう～ん・・・？

先生：つまり、散布する人間側がうまく養分が葉面から吸収されるように、散布方法を上手に考えないといけないということ・・・

生徒：なるほど！・・・適当に液肥を撒けば吸収されるというものじゃないということですね・・・

先生：そういうこと・・・まず『散布水量』・・・㎡当たり 40cc 以下でなければ葉面から吸収される確率はかなり下がってしまうわ・・・それに散布後にすぐに散布液が乾いてしまうと吸収されなくなってし

まうから、風の無い夕方の散布が理想的ね・・・もちろん後散水をしてはダメよ・・・散布液が土壌に落ちてしまうからね・・・

生徒：なるほど、でも葉焼けの心配はどうでしょう・・・？

先生：いい質問ね・・・当然濃度が高いものを少量散布すると葉焼けの原因になるから十分注意ね・・・それだけでなく葉面から吸収される量はとても少ないので、いっぺんにたくさんの養分を与えることは難しい

液肥散布

散布水量

N 散布量

コメント

のタイプ

cc/㎡

g/㎡

葉面散布

40 以下

0.24 ~ 0.73

95 ~ 100%葉面から

一般

120 ~ 200

4.9 以下

50 ~ 70%葉面から

十分散布

1000 以上

0.49 ~ 4.9

98 ~ 100%土壌から

わ・・・葉面吸収で有利なのは Fe や Mn などの微量元素を吸収させるときは有利ね・・・微量元素は土壌からなかなか少量をうまく吸収させることができないけど、葉面からなら少量でも十分効果が出るし無駄も少ない・・・それに根が浅くなって根から養分を十分に吸収できない時にも有利だけど、芝生の生育が落ちているときは高濃度での散布は無理ね・・・少量多回数の散布が必要ね・・・

生徒：そうすると手間もかかりますね・・・

先生：そのとおり、あくまでも通常の根から吸収させる施肥の補完的役割というところね・・・葉面吸収の試験は土壌から吸収されたものと葉から吸収されたものを分析して見分けることが難しいので、どんな成分・物質がどのような条件でどの程度吸収されるか、まだまだ研究段階・・・少量で撒けば何でも吸収されるというわけではないわ・・・あくまでも偶然染み込む葉面吸収であることを念頭に置いて、うまく葉面から吸収させる散布資材、条件を考慮しなければならないわね・・・



しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp